

新潟大学整形外科地域医療賞を受賞して

荻莊 則幸

このたび、川島 寛之教授、堂前 洋一郎会長をはじめ、同窓会の皆様のおかげで栄えある賞を頂きましたことを御礼申し上げます。

私は2010年（平成22年）4月より2020年（令和2年）6月まで新潟市医師会理事として勤めさせて頂きました。その後、現在まで監事の職を仰せつかっています。

10年間の理事在任中に、遠藤教授を初めとする大学の医局の先生方や、新潟市整形外科医会の会員の先生方の御協力のもと、新潟市における整形外科の一時救急をなんとか軌道に乗せることができました。これもひとえに、私の前任の理事、浅井 忍先生の御尽力によるところが大きいです。今後の救急体制は2024年からの医師の時間外労働の上限規制に関する働き方改革の実施、地域医療構想の推進で、新潟市内における整形外科のみではない、他科も含めた、救急医療の再構築が喫緊の課題となっています。市医師会としては整形外科における市内の救急医療体制が他科のモデルとなるよう、検討委員会を立ち上げました。

また、平成28年4月1日から施行された、いわゆる“学校における運動器検診”では、その2年前より新潟市教育委員会と事前に新潟大学、新潟市整形外科医会と会合を重ね、新潟市独自の運動器検診を構築し、実施してきた。

この新潟市方式により、運動器の専門医ではない、内科・小児科等の学校医の負担の軽減をはかると共に、検診の精度を上げる事が可能となった。また、結局は、医療費の社会的支出も減らす事となった。

2019年（令和元年）9月17日に新潟県障害者リハビリテーションセンターに、天皇、皇后両陛下をお

迎え(行幸啓)し、センターでリハビリに励む、障がいを持つ人々に対しての御案内を仰せつかりました。

このセンターは歴史をたどると、その前身は昭和 25 年に新潟市川岸町(県立がんセンター新潟病院の並び)にあった身体障がい者のリハビリ(更生)施設“新潟県身体障害者更生指導所”です。このいわゆる“指導所”が 1997 年(平成 9 年)4 月に現在の JR 亀田駅東口に移転され、2006 年(平成 18 年)からは民間に経営が移行されました。このセンターが入る“新潟ふれ愛プラザ”は障がいを持つ人々の県内の障がい者スポーツの基幹施設です。今回の“2020TOKYO”パラリンピックで水泳 2 種目で銀メダルを獲得した山田 美幸(京ヶ瀬中学校 3 年生)はこの施設のプールで練習していました。また、この施設の職員、永田 務はパラリンピック最終日のマラソンで銅メダルを獲得しました。今後も 3 年後のパリ・パラリンピックを初めとする大会に出場する障がい者のクラス分け、診断書作成、リハビリにと少しでも役に立てれば幸いです。

今、新型コロナ禍で世の中は暗雲がただよっていますが、その先を見据えて、地域医療等に貢献していきたいと思います。

最後に、推薦していただいた先輩の先生方には心から御礼申し上げます。